

第36回日本老年麻酔学会 スイーツセミナー2



Maruishi
Pharmaceutical
Co., Ltd.

信頼と合意

日時

2024年2月17日 (土)

15:45~16:25 (40分)

会場

第2会場

アバンセ (第3研修室)

(佐賀県立男女共同参画センター、佐賀県立生涯学習センター)

〒840-0815 佐賀県佐賀市天神三丁目2-11

加齢と嚥下機能障害:周術期管理の観点から

座長

原 哲也 先生

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 麻酔集中治療医学分野 教授

演者

木村 百合香 先生

昭和大学江東豊洲病院 耳鼻咽喉科 教授

《所属学会・資格》

日本嚥下医学会の新型コロナウイルス感染対策委員長

日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 耳鼻咽喉科専門医・専門研修指導医・補聴器相談医

日本気管食道科学会気管食道科専門医

日本がん治療認定医機構がん治療認定医

身体障害者指定医 (聴覚、平衡機能、音声・言語機能及びそしゃく機能障害)

難病医療費助成制度における指定医 (耳鼻咽喉科)

ICD制度協議会 インфекションコントロールドクター (ICD)

日本高気圧環境・潜水学会高気圧医学専門医

日本気管食道科学会評議員

日本嚥下医学会評議員

日本嚥下医学会認定嚥下相談医

臨床研修指導医 (厚生労働省)

医学博士

- 本セミナーは整理券制ではございません。
- 現地開催のみ。

共催：第36回日本老年麻酔学会／丸石製薬株式会社

加齢と嚥下機能障害:周術期管理の観点から

わが国は世界でも突出した超高齢社会である。高齢者は加齢性変化や複数の合併症を持つことにより嚥下障害を有する例が多く、また手術侵襲が加わることや、嚥下関連器官への手術操作が及ぶことにより、嚥下障害が顕在化したり重症化することも稀ではない。特に留意すべきは、頭頸部外科、心臓血管外科、大腿骨近位部骨折手術、呼吸器外科、消化器外科などの周術期である。

加齢にともなう生理的变化によって嚥下機能は低下する。口腔期では、歯の欠損による咀嚼力低下や、唾液分泌量減少に伴う食塊形成不良、口腔内保持力の低下がみられる。咽頭期の変化は、咽頭感覚の低下に伴う嚥下反射惹起遅延や、喉頭の下垂に伴う嚥下反射時の喉頭挙上距離の延長、舌骨下筋群の機能低下による喉頭挙上の障害、咽頭収縮力の低下による咽頭クリアランスの低下、頸椎骨棘形成による咽頭・食道の通過障害などがあげられる。認知機能の低下は、適切な食塊を形成できない、食物認知の障害から窒息や誤嚥のリスクをもたらす。

周術期の誤嚥性肺炎のリスク評価には、既存疾患の理解が求められる、器質的疾患としては、頭頸部腫瘍の術後や放射線・化学療法後、頸椎疾患（DISH）、食道疾患（食道癌、胃食道逆流症、食道アカラシアなど）のほか、胃手術後の腸液逆流や大動脈瘤や縦隔疾患手術により生じる反回神経麻痺の存在にも留意が必要である。機能的疾患としては、脳血管障害や、頭部外傷、脳腫瘍などの中枢神経疾患や、パーキンソン病・パーキンソン症候群、筋萎縮性側索硬化症などの神経変性疾患、多発性硬化症や炎症性筋疾患、重症筋無力症、Guillain-Barré症候群などの自己免疫性疾患など多岐にわたる。

本講演では、加齢に伴う嚥下機能の変化と周術期の誤嚥性肺炎リスクの評価、対応方法についてお話しさせていただく予定である。皆様の周術期管理のお役に立てれば幸甚である。

木村 百合香 先生
昭和大学江東豊洲病院 耳鼻咽喉科 教授